出雲文化伝承館の出雲屋敷（旧江角家）の庭園を実際に歩いて説明を聞く参加者ら＝23日、出雲市浜町の出雲文化伝承館

出雲文化伝承館

「出雲流庭園」眺め講演会

2回目、定員一杯30人参加

「出雲屋敷」の代表格、旧斐川町の旧家江角家を移築した出雲文化伝承館（出雲市浜町）の「出雲屋敷」で、庭の様式「出雲流庭園」に関する講演会が23日、あった。出雲流庭園の特徴などについて、市民30人が熱心に耳を傾けていた。

同講演では、島根県技術士会（木佐幸佳会長、会員約330人）の庭園文化研究分科会に所属する原裕二さんが、出雲流庭園の概要と庭石に焦点を当て説明。後半は、全員が同館の庭に降り、現物を使った解説を聞いた。

出雲流庭園が見渡せる座敷が会場の講演には、松江からの庭師の男性や、お茶に造詣の深い女性、講演の中で紹介された出雲流庭園の所有者など、定員一杯の30人が来場。同庭園の特徴などについて、時折、庭を眺めながら聞いていた。

木佐会長は出雲流庭園に関し、全国にある庭園流儀の中で最も知名度が低いが、人の暮らしと密接する点で国内唯一と強調。同会が研究を続けている背景を説明しながら、「（暮らしの中にある点が）素晴らしく、興味も尽きず、興味深い」と話した。

同分科会世話役の武田隆司さんは、「出雲独特の様式を持つ庭の存在が知られるようになったからだろうが、2回目の今回は、いろんな人に参加頂いた。個人での維持存続に課題が多い中、業界の人を含め活発な活動を行いたい」と述べた。

同館によると、近年は庭を鑑賞する目的での訪問が多くなっており、観光資源としての価値がより高くなっていくことに期待している。

著名人の旅、絵や書を展示

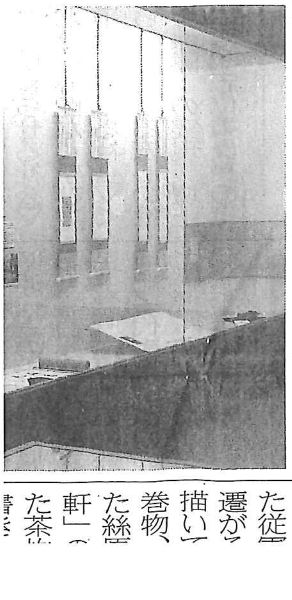
夏季企画展「旅をたのしむ」

絲原記念館

奥出雲町大谷の絲原記念館で、山陰や奥出雲町を旅し、絲原家や景勝地「鬼の舌震」を訪れた文人、著名人が旅の感動や思い出を絵画や短歌などにした作品を展示する「夏季企画展『旅をたのしむ』」が開かれている。9月8日まで。

同企画展では、江戸中期に絲原家を訪れた南画家の池大雅が指頭も使って描いた作品「指頭山水図」、1878、79（明治11、12）年に絲原家に逗留した南画家の田能村直入が横田の古刹（こさつ）岩屋寺を描いた「岩屋寺真景図」、鬼の舌震を訪れた時のことを9枚の絵にした「舌震図」などが並ぶ。

また、1930（昭和5）年5、6月の11日間、山陰を吟行旅行し、絲原家と鬼の舌震を訪れた歌人の与謝野鉄幹（寛）、晶子夫妻が詠んだ自筆の短歌冊、歌色紙なども展示された。



貴
近衛
10）年
日間、
太郎の
雲を旅
も立
た従
遷が
描いて
巻物、
た絲原
軒」の
た茶

島根県立図書館のおすすめ新着本

ルイジン

「魔女の宅急便」
「おばけのアッチ」
どでお馴染みの角野
子さんのデビュー作
御存じでしょうか。
野さんは24歳のとき
民としてブラジルに
り、二年間を暮らし
日本に戻ります。そ
時の経験を生かした
ビュー作が約半世紀
りに復刻されました
日本から船で約60
かけてブラジルへ。ジ
ングルが広がってい
と思っていたのに、
いた場所は高い建
が多い大きな都市で